

令和5年度 第1回湯沢町観光戦略会議  
議事要旨

日時:令和6年1月23日(火) 13:30~15:00

会場:湯沢町役場 3階 議会第2会議室

出席者(敬称略)

梅川 智也 國學院大學観光まちづくり学部 教授  
岡 淳朗 (一社)湯沢町観光まちづくり機構 代表理事  
小沢 貞春 (一社)湯沢町観光まちづくり機構 副代表理事  
小林 秀雄 (一社)湯沢町観光まちづくり機構 副代表理事  
関 拓真 (一社)湯沢町観光まちづくり機構 副代表理事  
高橋 幸一 (一財)湯沢町総合管理公社 代表理事  
南雲 純子 (株)コラボル 代表取締役  
京谷 昌美 一般公募  
高橋 葉子 (公財)日本交通公社 主任研究員

欠席者(敬称略)

富沢 恒 (一社)湯沢町観光まちづくり機構 副代表理事  
千代 達彦 JR越後湯沢駅長

事務局

南雲 剛 湯沢町企画産業観光部 部長  
富沢 雅文 湯沢町企画産業観光部 企画観光課長  
笛田 利広 湯沢町企画産業観光部 企画観光課 係長  
酒井真紀子 湯沢町企画産業観光部 企画観光課 主任  
高橋 功 (一社)湯沢町観光まちづくり機構 事務局長  
貝瀬 健太 (一社)湯沢町観光まちづくり機構 事務局次長

1 開会

富沢企画観光課長

昨年4月から機構改革により、企画部門と観光部門を統合し、企画観光課となった。第1回湯沢町観光戦略会議を開催する。本日の会議は、富沢委員から欠席の連絡があった。また、飯田正義委員から湯沢町議会議員就任に伴い辞任届が提出されているので報告する。さらに本日梅川座長と高橋葉子委員は、新幹線の運休により急遽リモートでの参加となる。越後湯沢駅は今井副駅長が代理出席の予定であったが新幹線運休対応のため欠席である。

本会議の開催について、概略を説明する。昨年度は7月・9月・11月と3回開催し、事業の進捗と来年

度事業の計画を話し合った。今年度の開催が1月になった経緯は、湯沢町観光まちづくり機構において、プロジェクトチームを立上げ、7月からプロジェクトチームによる事業実施体制となったことに伴い、今年度実施事業の計画・実施が夏頃になり、12月頃に来年度事業案が固まったことによるものである。このため、この会議において、湯沢町観光振興計画の事業の進捗と来年度の計画について、報告し、皆様から意見を伺う。

資料の確認をお願いしたい。①次第、②委員名簿、③座席表、④資料1 事業の進捗について、⑤資料2 規約の改正について、⑥参考資料1、R4 宿泊統計調査報告書である。また、紙資料のみの配布となるが、「雪国魚沼ゴールデンサイクルルート」というA4・1枚ものと「湯沢町地域移動環境計画」という冊子を参考資料として配布している。

梅川座長

新幹線不通により、そちらに伺うことが出来ず、皆さんとのディスカッションを楽しみにしていたができないのが残念である。今年は元旦から地震があり、思いもよらないほど大きな被害があった。一番話題になっているのが観光分野では、風評被害の心配である。どうしても今は行ってはいけないのではないかという消費者心理が働くが、逆に被災地に行くことで支援するというマインドに変えていくことが大切である。そんな時代となったのではないか。現在すぐに能登へ行くのは難しいかもしれないが、金沢や富山などに行くことで、少しでも元気になってもらえればと思う。今日の報道によると福井、石川、富山、新潟4県を対象に、北陸応援割等で国から予算が投じられるようだ。そういうことがいいのか悪いのか分からないが、踊らされることなく粛々と進めていった方がいいのではないかと思っている。今日は限られた時間だが、忌憚のない意見交換をし、湯沢町の観光振興につなげて行ければと思う。

## 2 事業の進捗について

事務局笛田係長

質疑は全て説明が終わった後に質問を受けるので了承いただきたい。

\* 資料1 湯沢町が主導的に実施している内容について説明。

事務局貝瀬次長

\* 資料1 湯沢町観光まちづくり機構が主導的に実施している内容について説明。

事務局富沢課長

\* 地域移動環境計画について説明。

梅川座長

丁寧な説明で理解が進んだが、忌憚ない質問意見等をお願いしたい。

小林委員

全体的に見ていて進んでいるがその目標が分からない。進み具合が60進んでいるのか、100進んでい

るのか、20しか進んでいないのか数字で分からないというところが全体的に見受けられる。例えばエレベーター、バスもまとまってきていいと思うが、利用率を上げ、周遊バスにつなげ、人が集まるようにしなければならない。長岡花火がいい例で、あれだけ人が来て新潟市内には泊まりに来ていて、帰りの新幹線の新潟方面は満席なのに、東京方面は席が空いている。新潟と湯沢の距離はそれほど変わらない。認知やその後の宣伝、お客様がどう動けるかの情報が少なすぎるとそういう状態になりかねない。湯沢でも作った方がいいが利用者がいないと採算が取れないなど、地域差が出ることがないように、ここまで来たら、その先を考える必要があると感じた。成功例で言えば、例えばマッチボックスは全国に先駆けて湯沢が始めたが、今まで湯沢だけだったので湯沢のやりやすい形であったが、全国に出来ると登録者の取り合いになる。最初にやった利点をこれからも発揮していくためには、南魚沼市や長岡市が入ってくると登録者がそちらに流れていくのではないか。もう一步先を見据えたものを連動していかなければならない。新規事業者への誘致する人に対してどんなことをするかが、全然出ていなくて、新しく湯沢で実際にやるとしたらやり方を考え、町がどのように誘致したことによってどんな優遇があるのかが見えない。

#### 梅川座長

個別のプロジェクトの全体像や関係性を知りたいということだか、この事業をやったことによってどれくらい達成できているのかということ等、バス交通やマッチボックスなどについては事務局どうか。

#### 事務局富沢課長

バス運行の計画を進めているが、東口に送迎バスを集約し、路線番号を附番し案内を分かりやすく表示することを昨年からやっている。実際にそこに入っている各スキー場や各宿泊施設のバスに町民も乗れるような状況を目指している。まずは混在しているバスを統合し整理することを優先し、苗場スキー場や、大源太等の目的地まで行く観光客の足としてだけでなく、そのエリアに住む町民の皆さんも両方が便利になり、限られた交通資源を活用し、サービス性を高めていこうと計画している。計画期間5年の中で令和6年から目に見える形での取組が進んでいくと理解してほしい。

#### 事務局笹田係長

南魚沼市が新たにマッチボックスを開設したことで、登録者の取り合いになるのではないかという懸念があったが、今現在南魚沼マッチボックスに登録している湯沢町民はほんのわずか一桁台である。ゆざわマッチボックスに登録し働きに来ている南魚沼市民の方が多い。登録者1,123人のうち、町内の方は419人、町外、新潟県内の方が449人いるが、このうち大半が南魚沼市と十日町市の居住者で湯沢町に働きに来ている。ゆざわマッチボックスの戦略は、単発バイトの労働力不足の穴埋めだけでなく、多様な働き方が出来る地域づくりという点、単発バイトを活用することにより、既存の正社員の休暇取得のしやすさや、本業に注力できる生産性の向上を図ってもらいたいという希望がある。マッチボックス社には企業に説明する際に、事業の切り分けについて外の方に任せられることはマッチボックスに任せ、正社員はそれ以外のことに注力するなど活用してみてもどうかと提案してもらっている。長期的な目的としてはマッチボックスで企業と働く人の接点が作れたら長期雇用や正規雇用につながればよいと思っている。長期雇用につながる人が何人いたかなども今後調査していきたい。

梅川座長

地域交通の話は画期的な話だ。送迎バスと路線バスの重複する部分をうまく整理しようというのは昔からの課題かもしれないがとても良いと思う。どこかに書いてあるかもしれないが、ライドシェアの問題だが、タクシー業界との兼ね合いで都会ではなかなかできないが地方ではとても可能性がある。ライドシェアのどのシステムを使うかもあるが、導入できれば消費者は使いやすくなると思う。ライドシェアに関する検討はされているのか。

事務局富沢課長

ライドシェアについては、国は交通資源が少なくなってきたことを補完するために外国等を習い次年度から本格的に取り組んでいくことになると思うが、先ほど説明した協議会で積極的に検討していく必要がある。ただ、今のところ地域のタクシー運行事業者の理解が進まない、まだ協力的に議論を進めることは難しい。バスもタクシーも今現在運転手が不足していることに加え、この春から2024年問題という、運送業労働者の時間外労働の上限が適用されるという問題で、運転手不足のところにさらに業界の人手不足が加速している。実際路線バスを運行している南越後観光バス株式会社でもこの問題に直面している。この計画を進めるには向かい風だが、より一層このエリアの運行資源を有する事業所と協議した中で効率の良い運行を進めていく必要があると感じている。

梅川座長

国のいろいろな軋轢もありながらも前向きに進めていかなければいけない状況になっている。消費者目線で考えたら、必ずそういう方向に行くと思う。タクシー運転手の不足の問題等もあるが、水面下でもいいので検討していただき、国から許可が出たら、いち早く取り掛かってもらいたい。

事務局富沢課長

既存の交通の考え方を思い切って変えていかなければ、公共交通の再編は成り立たない。何とか説得して、変えていきたいと考えている。

梅川座長

湯沢町が最初に取り組むようになってほしい。ゆざわマッチボックスも素晴らしい取組だと思う。観光産業の特徴として、季節によって需要が大きく変動することが問題としてあるが、このマッチングがこのシステムとして出来ることは素晴らしい取組だ。もう少し認知度を上げて冬のスキー場などでは、学生、リゾートバイトを含めて多くの方に登録してもらえるようにしてもらえればと思う。

小林委員

バスの方はすごく成果が出ていると思う。あれだけ集約されて利用者側としても、お客様側としても、案内する旅館関係者も凄く案内しやすくなっていて、分かりやすくなっていると思う。私はすごく成功していると思う。

事務局富沢課長

私たちが考える将来像の地域交通はまだまだ。地域住民もきちんとそれに乗れて活用できるところを目指している。

#### 小林委員

ゆざわマッチボックスもすごく成功していて嬉しい。私の会社でも活用している。今年 1 人指定パートとして採用している。ここ最近テレビのCMでタイミーと言う、マッチボックスの二番煎じも出てきている。応募者がたくさん集まっているが、応募する企業が少なく苦戦しているようだ。湯沢が二つに分かれるとか、魚沼地区で二つに分かれることがないようにしたい。成功しているからこそより湯沢が一番で進んでいければいいと思う。

#### 事務局富沢課長

成功していることの利点がそういうことだが、湯沢でもまだ働きたい方に周知出来ているかと言うとゆざわマッチボックスのしくみを知らない事業所もまだあり、もっと浸透させマッチングさせることは、湯沢町が先んじて取り組んでいることのメリットを活かすためにも、やるべきことがあると感じている。その一助になればと、広報ゆざわでこの秋マッチボックス利用方法を周知したが、そう言った周知や利用者をもっと増やし、認知度を高めていきたいと思う。

#### 岡副座長

進捗ということで、目標をプランニングした中で、我々委員であり、実施者側でもあるが、今これだけやれている。今後の湯沢の道筋、土台作りをしている最中で、プランとして多岐にわたるものを作り上げ、但し実際にやる作業は細やかに、数値を拾いながら、K P I を拾い実施に結びつける作業がまだ甘いが、戦略会議だけでなく機構しかりそうだが、あまり得意にしていなかった分野なので、数値目標を掲げた上で成果を評価しながら改善していく作業を繰り返す必要があると感じている。ゆざわマッチボックス関連は、大変いい取組である。先進的に始めてパイオニアでやれば次の瞬間からすぐ古くなるので、新たにブラッシュアップをかける必要がある。観光地湯沢として仕事場として選ばれるように維持するためには、経営者の目線からすれば働きやすい職場だと感じられれば、恐れるに足りずだと私は思うが、そこを意識しながらシステムを作り上げてそれに乗っかっていければいいというものではなく、現場をしっかりと働き手が働きやすさや、やりがいを強く感じる職場づくりが必要だと考える。先程のK P I の話だが、この計画のみならず、都市計画や、町の計画の大目標的にはいいが、しっかり数値を追うことを癖付けていく、そう言ったことを強く出していかなければならないと実施者の我々からすると足かせ手かせになりかねないが、それを厭わずやらないと、長期的に見ても湯沢の飛躍、維持も難しくなると感じている。

#### 梅川座長

今の話はとても重要なところで、P D C A はしっかり取り組む必要がある。今日の会議の場は、チェックの場で、ここを甘くしてしまうと、まあいいやという話になりかねない。反省すべきところは反省して、きちんと評価してほしい。ここは甘えないでしっかりやっていければと思う。

岡副座長

機構でプロジェクトスタイルを取り、予算をつけ、具体的な数値を立てながら、内容を組もうと、内部の人間、外部の人間をこぞって行政の方にも入っていただき、動かすというスタイルをとったことも、常にそこをサイクルすることを常に意識することを頭に置く必要があるし、それを内外プロモーションという話があったが、インナープロモーションがクローズアップされているので、理解度深めていく意味でもそういった厳しい目を持ちながら対処しているということをお話する必要がある。私が泣き言ばかり言っているのも迷惑をかけてばかりだが、本来DMO設立準備室の団体で今思えば設立準備室はそのまま維持されるべきであったとされていて、それを移行や組織の変化をそこでしっかり作業しつつDMOとしての新しい顔を作り上げるということを今同時進行で進めているので、実感を持って泣き言を言わずに進めていきたいと思っている。

梅川座長

世界的DMOの会議が観光庁で始まった。先週もその会議があったが、流れ的には湯沢町の方向性と合っている。機構は、これから登録DMOになり、新たに事務局長も来られたということなので、責任のある方々とともに多様な方々にも入ってもらい、世界的DMOになるシナリオをしっかり作った方がいい。DMOに関する予算も付くだろうし、DMOになれば補助事業もとりやすくなる。地域のマネジメントをするには絶対必要な組織だと思うので、インナープロモーション含めて頑張ってもらいたい。岡さんをはじめ皆さん努力をしているので私は評価しているが、辛いこと嫌なことをやられている。目標観をもって3年後にはとか5年後にはとか、しっかりと進めた方がいい。

岡副座長

ご協力をお願いしたい。

南雲委員

DMOにこれだけ人数が少ない中、皆さんが非常に頑張っていて、「変わった」と思う反面、実は町民には浸透していない。例えば、「DMOはマルシェしかやっていないイメージがあり、情報が届いていない」という話を聞く。そこに対してはもったいないと感じる。

数字をしっかり出していくという話もあったが、先日のマルシェでは、2日間で3,900人の入込があり、インバウンドのアンケートを現地でシールを張って調査していたようだ。現地で頑張っているスタッフのそういった情報とか、湯沢の農産物が少ないようなら、実際湯沢のお店が何店だったなどもこういった場で発表してほしい。

大変恐縮だが、この会議の進め方について提案したい。事務局は予めきちんと資料を作成し、事前に送って頂いている。しかし実際の会議では、資料の説明に1時間かかり、議論の時間が取れないことが非常にもったいない。今のままだと一人一言で会議が終わってしまいそうだ。年に1回か2回しか開催されない大切な会議で時間が限られている。この提案については、参加者の負担は増えることになるが、資料は事前によく読み込んできてもらい事前に質問事項を事務局に送付する。事務局から会議までに意見に対する数字等を示してもらい追加部分を発表するという会になると、この時間がより深いものになるのではないかと思う。

梅川座長

今の会議の進め方の話は賛成で、国の会議などでも説明は概ね30分程度にしている。逆に我々の資料の読込は厳しくなるだろう。前日に届いた資料を翌日の会議までに読み込んでいく必要があるので負担は大きいですが、コロナが明け、リアルに集まれることを大切にするということは賛成である。これはぜひ事務局にお願いしたい。

事務局富沢課長

事務局の対応は大丈夫だが、皆さんに事前に読み込んでいただくことが大変だと思うがそれで了承していただけるのであれば、こちらとしてはありがたいことだ。

梅川座長

皆さん事前に読み込んで参加する方向で良いか。全員了承ということで次回からそういうことにする。

南雲委員

連携体制の強化について利用者目線の話があったが、1月1日の地震発生時、越後湯沢駅は大混乱であった。私も通常であれば、Instagramを活用しているが、こういう時はXだと思い、久しぶりにXでいろいろ情報収集した。元委員であった飯田議員や渡辺議員が非常に頑張っているいろいろな情報を発信していたが、DMOの情報は更新されていなかった。身近な情報をすごく困ったときに町からお客様に避難所などの最新情報を届けることは重要だと思うのでその辺りを強化してもらいたい。その他、エリア担当制とかプロジェクトチームを立ち上げているが、その内容についても共有してほしい。

また、私も関わっている内容になるが、東口の活性化の資料にもあったように、サロン山本さんの2階をチャレンジショップにして学生でも借りられるようにしたり、先日はNGT48が取材に来てバズタイムズで放送されたり、地域を活性化しようと頑張っている。夏まつりには餅まきを実施したり、今日この後も会合がありDMOの企画とあわせて冬のイベントも考えている。目に見えていないところで地域も動いているので報告としたい。

梅川座長

非常時の情報発信についてもDMOとしても耳の痛いところだと思うが、しっかりと対応していく必要がある。やはり情報共有の問題である。

岡副座長

正直大変問題視している分野であり、紙やメール等何をチョイスするのが、人それぞれと言うこともあるが、柱となるものを決めなければいけない。毎日機構事務局に言っていることだが、まだ具体的にない。リアルタイムで情報を共有できる、そこに尽きると思う。それにより自分の家や地区でどうするかとか、地区で始まっているところもある。そこを出すことをまちづくり機構として責任をもってやっていかなければならない。役場との情報の連動性もカギになる。災害時は役場と連携して情報発信が出来ないと、多分有効性はない。我々はこの冬の状況はインバウンドゲストがいなければ、日本人が非常に少ない。そういった中でどういった動向でどう動くかというのを個別にこれがすごく有効だということ

ろを我々が行政と出して行ければと思っている。

#### 高橋（葉）委員

今日現地に行けず、大変残念である。マルシェの話があったが私は Instagram などフォローしているが、面白くなってきてどんどん進化している。マルシェ関係もいろいろなお店があり、地元のお店が増えるといい、面白いお店も入ってきているので、マルシェが地元のお店を育てる場になってくるとなおいと思った。移動環境計画は素晴らしい、他の地域もみんな困っていることに上手に取り組んでいるので他の地域も参考になると思う。キャッシュレス決済の件だが、まだまだ課題が多い。地元事業者は手数料を取られるからやりたくない気持ちがあるのも分かる。私は最近出張に行くとき以外、現金を使わないのでほとんど現金を下ろす機会がない。私の年代でもそうだが、20代は財布に現金を持たない。それを考えると土産を買うにしても飲食するにしても販売やサービスを受ける機会を失うのはすごく損をすると思う。同じ課題で、別のスノーリゾートの手伝いをした時に、地元の商工会や商店が手数料のことで導入に踏み切れないでいた時、地方銀行さんがそんなことを言っていたらダメだと非常に危機感を持っていた。例えば、手数料の一部だけでもキャッシュレス決済の立上げ時に手伝える仕組みは出来ないかという話があった。いち早くやらないと損してしまう。

環境負荷の少ないパンフレットの話は今どきだと思った。観光庁で持続可能な観光への取組が始まっている。とりまく自然環境への負荷を減らす観点だけでなく、社会のサステナビリティなど持続可能な観光地を作ることを推進している。環境ばかりでなく従業員の働きやすさなどもそういったことになると思う。

最後に外部研修に職員参加が少ないのが課題だという話があったが、少数精鋭で少ない人材の中で能力を最大化するためには研修効果は高い。もっとチャレンジして行ってほしい。プロモーションのSNSはどのツール使うかなどの問題もあるが、今若年層は短い動画しか見ない。それが主流になっている。紙媒体で育った世代だとそれに感心してしまう。逆にデザインセンスがいい方もいるが時代の流れは速いのでスキルを身につける研修は何とか時間やお金を捻出してやっていくべきだと思う。職員の働きやすさなどを追及していく余地があると思う。

#### 梅川座長

今の話題は時間があればどんどん広げていける内容で時間がないのが残念である。環境負荷の問題は、取組自体をこれで終わらせないようにするにはどうするのがいいか。観光庁が推奨している国際認証グリーンディステーションの認証を受けることは、世界的に情報発信されるので、国際的な情報発信には向いているのかもしれない。SDGsや環境負荷低減の延長線上で3年後には国際認証を受けるなど、しっかりと目標をセットしていくことが大切である。これも今後の課題だと思う。

#### 小沢委員

自分で自分のことを言うみたいで嫌だが、よくやっていると思う。悪いところは、反省はするが次の計画を立てると1・2か月という一呼吸おいてしまうスケジューリング感がある。一番気にしているのは、スキー場の共通チケットの問題である。スキー場事業者は11月、12月になって各スキー場のリフト券の値段が決まる。そこから宿のプランを作っても、集客には間に合わない。特にインバウンドでは相当前に旅行



が決まっているので間に合わない。湯沢町ではスキー場と連携して先行して料金を決めるのは難しいが、前のめりでやっていくことがすべての他の事業にもつながっていくことになると思う。

梅川座長

とても重要な指摘であり、海外のスキー場、特にアメリカのスノーリゾートでは、シーズンが終わるとすぐに次のシーズンの年間パスポートを販売している。早く購入するほど安くなり、夏期にも収入があり、それを冬のプロモーション経費などに充当している。雪が降らないと収入がないというビジネスモデルは昔の話だ。観光庁のスノーリゾート活性化事業で、湯沢町がいいのは、初年度は湯沢町だけだったが、翌年から対象エリアを南魚沼市にも広げた点である。行政界にとらわれない考え方が大変評判がよかった。これからはなるべく早く年間パスポートを販売し、積雪前から収入を確保していく手法に変えていかないとだめだと思っている。

事務局富沢課長

先程の緊急時の情報発信をという話だが、機構にも行政から発信するべきところだと考えるが、本当に正確なところを出さないと本当のことが分かりづらい。SNSの投稿は早いけど真実かどうか問題である。町民には、町の公式LINEから発信しているが、来ているインバウンドを含めた観光客への緊急時の情報発信は、まだ町の防災担当からも整備が必要な旨を聞いている。これから機構と行政で確立していかないと機構が知りえた情報だけで情報発信していける問題ではないということを理解しておいてほしい。

梅川座長

緊急時の正確な情報源をしっかりと統一する必要がある。

高橋（幸）委員

湯沢町地域移動環境計画は、バスや電車や駐車場等合わせての計画ということで個人的に期待している。中央公園の中にゴールデンサイクルートの自転車スタンドと空気入れを設置してあり、利用者からサイクルルートが分かりづらい、という声を聞いている。山の絵に線が入っただけの分かりづらい地図が出てくるだけで、もっとわかりやすいコースの地図があるといい。あと矢羽根があるのはいいが、矢羽根が何だか分からない人もまだ多いと思うので看板等整備してほしい。

事務局笛田係長

今の自転車の件だが、ナショナルサイクルルートの指定に向け、アクションプランを作成してる。これから徐々に進めていくところである。

関委員

雪国魚沼ゴールデンサイクルルートはすごくいい取組だと思う。DMOでもモンベルとタイアップしフレンドタウンになっている。モンベルも自転車に力を入れていて、モンベルフレンドタウンでモンベルの自転車をレンタルしているとか、モンベルストアでモンベルの自転車をレンタルすることが出来る。そ

ういったところとタイアップするとより盛り上がると思う。モンベルのジャパンエコトラックをスマートフォンで見られるようになっていたので見やすくなっている。先程のスマートフォンを地図代わりに活用できるのでうまく連動を考えると良い。

ふるさと納税の増収を目指すと言がある。茨城県境町に自動運転バスを体験に行った。境町は人口23,000人で湯沢町の3倍だがふるさと納税額は令和2年37億円であった、湯沢町は4億円で、約10倍である。自動運転バスを6台購入し、観光施設なども財源はふるさと納税額だということだ。湯沢町もふるさと納税に観光客の多さを活かしてふるさと納税額を上げる工夫ができればと思う。

#### 梅川委員

ふるさと納税の活用はとても良い指摘である。税収は町独自で使うことができるのでいいと思う。

#### 事務局富沢課長

まず、モンベルの件は非常に良い意見。今話のあった茨城県境町は何があるのか調べたら、日立牛というブランド牛がある。湯沢町は残念ながら地場産の牛や北海道のような海産物がない中頑張っている方である。湯沢町応援感謝券があり、昨年は7億円のふるさと納税をいただいた。南魚沼市は米で50億のふるさと納税があり、湯沢町の米は南魚沼市産に引けを取らず美味しいがたくさん作ることが出来ない。当座の目標は10億円を目指している。

#### 京谷委員

湯沢町はコロナが明けてから今年は特にインバウンドが増えている。苗場スキー場で週に2・3回スキーをするが、ここは日本のスキー場なのかと思うほど外国人が多い。ゴンドラに乗っていても聞こえてくるのは日本語以外である。今後もインバウンドの方が増えると思うので、インバウンド向けの対策、施策を考えた方がいい。サイクルルートのターゲットは二つあって、本当の愛好者向けの施設整備、もう一つはたまたま湯沢に来て天気がいいから自転車に乗ってみようかと走りたいところだけ走って、17号線そういった人向けには本格的な自転車ではなくて電動式の自転車とかがいいのでは、ないか。駅の表示も去年に比べればいいが、インバウンドの方はやさしい日本語は覚えていて難しい言葉はスマートフォンを活用しているようだ。

#### 岡副座長

オーバーツーリズムというか、インバウンドの方が夕食にありつけない有効性が何処までになるか、振り切った形でやらないと世界中の人口のうち6割近い魅力はアジアの皆さんに湯沢町の魅力を感じてもらっているので、いかに継続してもらえるかが課題だ。言語的対応と雪慣れしていない初心者が多いため手がかかることを知った上で、インバウンドみなさんのおかげで成り立っている。

#### 梅川座長

東口の観光案内所の整備は、インバウンドに特化し、特徴のあるものにしていってはどうか。インバウンドの方々が分かり易く、使い勝手の良い案内所に振り切ってしまった方が湯沢らしくていいと思う。

事務局富沢課長

サイクルツーリズムの件で、ゴールデンサイクルルートの本格的なサイクリストではなく、一般の方を想定している。アクションプランの中では自転車を電車で移動できるサイクリストレーンなどを上越線とほくほく線で走らせることも考えている。サイクリストにやさしい宿を増やしていく計画もあり、これからだということである。

梅川座長

来年度に向けてもっと議論したいところだ。しかし、時間が足りないので次の議題に入る。

### 3 規約の改正について

事務局笛田係長

資料2について説明。

梅川座長

先ほどの話にもあったが、PDCAのいわばチェックをする委員会の役割に推進主体の皆さんが入っているのはどうなのか、利益相反はないかという問題意識だと思うが、これからも一緒にやっていくことは変わらない。立場がちょっと変わるということになるが、推進する側と評価する側を明確に分ける、コンプライアンス、ガバナンスの問題に対する提案である。

岡副座長

異議なし。

梅川座長

この規約の改正には皆さん同意いただけたということでよいか。機構の皆さんには引き続き事務局側として、厳しい意見もしっかり聞いていただければと思う。

反対意見なし。

梅川座長

最後に私からもお願いしたい点がある。一つ目は、前向きに取り組んでいきたい事業にガイド事業がある。今後極めて重要な問題なので皆さんの知恵も拝借しながら進めていってほしい。二点目は宿泊施設の高付加価値化の事業の話が入っていなかったが、インバウンドが戻ってきているので、人数ではなく質を求める観光客への対応として重要な課題だと思う。三点目は、新財源の問題である。下手な出し方をすると潰されることがある。極めて慎重に、進めたいところだ。県の意向と市町村の意向が異なるケースがある。福岡県はうまくやっているが、北海道などは市町村の意向と調整が難しくとん挫していると聞いている。最近はいろいろな動きがあるので、それらの動向を踏まえながら、宿泊税と入湯税をしっかり整理して周到に準備してほしい。それから観光統計の回収率のアップはどうしても必要である。観光振興には多

くの税金も使われているのだから、民間側も協力していこうという意識の向上も重要で、回収率が 50% いかないのは大変問題である。湯沢町の観光の現状を把握するために、官民をあげて回答率を上げてほしい。時間も大幅に超過してしまったが私から伝えておきたい内容をお話しさせていただいた。司会を事務局に戻したいと思う。

#### 4 その他

事務局富沢課長

事務局では特に議題を用意していないが、この後事務局から連絡が数点ある。皆さんから意見があれば。

事務局笹田係長

今日の会議で今年度は終了になるが、予算編成や事業の実施、新委員の選定について意見等をお願いすることがあると思うので承知いただきたい。会議の資料と要旨については、出来次第湯沢町のホームページに公開する予定である。掲載前に内容について確認していただくのでご協力をお願いしたい。

事務局富沢課長

今回の進め方については、南雲議員からご指摘のあった進め方で進めたいと思う。これで湯沢町観光戦略会議を終了する。引き続き協力をお願いしたい。